

大久保地区育成委員会だより

第36号

新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

令和4年2月号

感謝!! 感謝!!

大久保地区青少年育成委員会

前会長 大浦 正夫



この度、新宿区町会連合会会長を受諾することとなり、大久保地区青少年育成委員会会長を辞任することとなりました。私の身勝手をお許しください。

思い返せば、昭和45年文部省から青少年の健全育成についての通達があり、新宿区では昭和46年青少年対策委員会を10か所の特別出張所に設立しました。

当時、委員会は町会中心で運営され、吉田初代大久保特別出張所長が活動に頑張っておられました。私は百人町中央町会青年部長として、町会役員の方々に連れられ旧出張所2階の会場に行きました。入室して驚きましたのは、当時は扇風機全盛時代で家庭にはクーラーはありませんでしたが、大きなクーラーが冷たい風を流し大変気分も良く、その後もクーラーに当たりたくて出席しておりました。

昭和49年、戸山小学校PTAに加入してから青少年対策委員会の会議と呼ばれ、委員の半数は各校PTA会員が占めるようになりました。私たちは、各行事の参加者集めが主な活動でした。ある小学校PTA会長は学校に帰るたびに「会長はPTAが忙しいのに余計な仕事を持ってきて困る」と役員に叱られ、その後青少年対策委員会を脱退しました。

その頃発足した事業は、社会環境部の歌舞伎町パトロール。新宿警察署員同行で3班に分かれ、当時流行のゲームセンター（センター内に個室があり、いかがわしいテレビが有料で流れていました）やゴーゴー喫茶など、お客や係の女性がいけない時間に見学しました。

施設見学は、新宿警察署員同行で少年刑務所、少年院。水上警察見学ではパトロール用ランチ5〜6台で海ほたる一周クルーズを行ったこともありました。

育成部は、田舎に行けない子ども達と、夏休みレクリエーションで森林公園にバス5〜6台で行きました。

体育部は、新宿区大運動会。1地区参加者200名限定で、会場は戸塚第一中学校跡や西戸山野球場。会場から遠い地区はバスで送り迎えをしました。その後、コミュニティスポーツ大会と名称が変わり、会場は大久保小学校になって、輪投げ、ビーチボールバレー、ユニカールと種目も変更されて年配者の参加が多くなりました。

教養部は、健全育成は親子・地域の絆をモットーに、幼児も参加できる親子合唱団を立ち上げ、活動しています。

青少年育成委員会創立以来、本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月に予定していた令和3年度委員総会も中止となり、直接皆様方にご挨拶できず、非常に残念です。

大久保地区青少年育成委員会は、私の第2の青春の場でした。心より感謝申し上げます。

着任のご挨拶

大久保地区青少年育成委員会

会長 新倉 康夫



新宿地区青少年育成委員会成立50周年を迎える記念の年に、大久保青少年育成委員会会長の大使を賜りました新倉と申します。身の引き締まる思いと心許ない一步を踏み出したところです。

前会長の大浦氏はこの度、新宿区町会連合会の会長に昇任され惜しまれつつ退任されました。在籍50年、会長として28年間（内、

会長会の会長12年間）に亘る功績と労苦に感謝し、益々のご活躍を祈念いたします。

さて、私は以前、戸山小学校のPTA会長当時より当委員会に携わって早22年が経過しました。その間、平成14年に逝去されました前環境部長・永谷氏の後任兼副会長として及ばずながら活動させていただいた次第です。

この度の引き継ぎに当たりましては心新たに

大久保地区の 小中学校にアンケート!!

今年度もコロナ禍で試行錯誤が続く中、学校の様子について答えていただきました。

（年末にお答えいただいたので、現在の状況とは異なる場合があります）

Q1 今年度から着任された方は自己紹介をお願いします。学校の印象はいかがですか？

Q2 今年度は運動会、学習発表会などの行事は、どのような形で行いましたか？

Q3 印象に残る子ども達のエピソードや、コロナ下での学校の様子などを教えてください。何か地域に発信したいことはありますか？

大久保小学校 山下智美副校長先生

A2 10月2日に「おおくぼスポーツフェスタ」（運動会）を行いました。今年度は表現と短距離走を実施しました。保護者の皆様には表現のみを参観していただきました。

て、踏襲するもの、時節に沿った刷新すべき活動を皆様共々考慮して行く所存です。長引く新型コロナウイルスの感染により全ての祭事や活動が中止となる中、安全・安心は元より、負担の軽減と同時に世代交替も視野に歩を進めてまいります。皆様方のご指導、ご協力を切望してご挨拶とさせていただきます。

12月3日、4日は学習発表会でした。子ども

達はリハーサル日、児童鑑賞日に見合いました。体育館に入る人数に配慮しながら行いました。

どちらも感染防止対策のため、発表学年にお子様がいる保護者の方、2名までの参観とさせていただきます。



A3 多くの制約がある中で学校生活を送っていますが、子ども達なりに受け止め、考えて過していると思います。緊急事態宣言が解除されてからは、今までできなかった調理実習やリコーダー練習も再開したり、校外学習にも出やすい環境になったりしています。子ども達は楽しそうに、また意欲的に活動しています。

天神小学校 新井正一校長先生

A2 4月25日に発出された緊急事態宣言が5月31日まで延長となり、感染症の感染拡大防止のため、5月末に予定していた運動会を6月12日に延期しました。しかし、宣言が6月20日までの再延期となり、保護者の参観ができない無観客での実施となりました。保護者には、ギガ端末を活用しMicrosoft Teamsを使って、お子さんと一緒に運動会を振り返ってもらうというようにして動画を配信しました。6月26日（土）の学校公開時に表現種目のみ公開しました。

感染状況が好転して9月30日に宣言解除となり、10月下旬からは感染者が50人に満たない状況になったため、11月5日にグリーンアドベンチャー（全校遠足）を戸山公園で実施しました。また、学芸会も12月16日（金）、17日（土）に実施することができました。特に、17日の保護者等公開日は、学年入れ替え制で保護者に公開しました。さらに、12月2日には、勤労生産・奉仕的行事として「みんなで働く日」と題し、学校周辺の清掃活動（落ち葉拾い）を実施しました。これには保護者・地域の皆様にもご協力をいただきました。まだ感染症対策としてマスクは外せませんが、今後とも可能な限り通常の教育活動を実施していきたいと考えています。

A3 新型コロナウイルス感染症対策として、児童机に飛沫防止ガードというコの字型の透明な衝立を導入し、緊急事態宣言下で使用してきました。給食時にも使用しているので、黙食の徹底ができています。このおかげで感染症対策が徹底できていると思っています。

グリーン

アドベンチャーは、たてわり班ごとに活動したのですが、この行事では6年生が下級生の面倒をきちんと見ていて、学校から公園までの行き帰りも班長さんが下級生の安全に気を配り、振り向きながら歩いていく姿など、最高学年らしい素晴らしい姿を見ることができました。6年生と1年生のやりとりで微笑ましい姿が見られました。「たてわり班での班長として、下級生をまとめるのに疲れました。先生の気持ちがとてもよく分かりました」という6年生の感想がありました。異学年で関わり合うことで、人として大切なことを学び合うことができると改めて思いました。

次年度、本校は開校100周年を迎えます。10月29日(土)に記念式典を実施します。感染症の感染状況にもよりますが、育成委員会をはじめ地域の皆様にもご臨席賜わりお祝いをしていただきたいと考えています。その時は、ご協力をよろしくお願いいたします。



戸山小学校 矢島直子副校長先生

A2 10月30日(土)は秋晴れで絶好の運動会日和となりました。昨年度と同じく「スポーツフェスティバル」という呼び方で表現のみの発表会をしました。参観も当該学年の保護者のもとさせていただきましたが、昨年度は家庭2名まででしたが今年度は4名までとなりました。少し活気が戻ったスポーツフェスティバルとなりました。

12月11日

(土)は学習発表会を行いました。体育館に保護者の方を招いての行事は2年ぶりのこととなります。保護者の方は各家庭2名まで、指定席での鑑賞とさせていただきます。ただきでしたが、子ども達は学習の成果を舞台上で発表することができました。久しぶりの壇上に、少し緊張の面持ちの子どもたちも、発表後は達成感にあふれていました。



A3 コロナ禍での新しい生活様式にも、だいぶ慣れてきました。11月からは社会科見学や遠足等も再開し、子どもたちが楽しめる行事も増えてきています。また、地域の皆様のご協力により和太鼓クラブも始まっています。



西早稻田中学校

西野 淳 副校長先生

A1 本年度、品川区より異動してまいりました西野淳と申します。よろしく願いいたします。前任は小学校1年生から中学校3年生まで在籍する義務教育学校で、およそ9年間所属しておりましたので、久しぶりの中学校となりました。着任時の挨拶をさせていただいたとき、体育館壇上から見た生徒たちの話を聞く姿が立派で驚いたのを鮮明に覚えています。生徒自身のこれまでの学びや経験はもちろんですが、先生方や保護者の皆様、地域の方々の支えが、この姿をつくり、育てているのだらうと強く感じました。

A2 5月29日(土)に第17回運動会を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、残念ながら保護者の観戦はご遠慮いただきましたが、午前中に1年生と3年生、午後2年生と3年生の種目を行うなど、全校生徒が同時に集まることのないよう工夫しながら実施することができました。

運動会に向けた練習の際にも様々な制限があったものの、先生方や生徒たちが限られた状況の中で、より良い運動会にしていこうと一生懸命取り組んでいました。

西早稲田祭（合唱部門）につきましては予定を変更し、3月12日（土）に実施予定となっています。

A3 新型コロナウイルス感染状況が落ち着いていた10月25日（月）、本校生徒会役員、JRC部の生徒たちと、



地域協働学校運営協議会委員の方々による地域清掃ボランティアを実施しました。グループを2つに分けて密を避けたり、1時間以内という時間制限を設定したりと、感染予防を行ったうえでの実施となりました。そのような状況下ではありませんでしたが、委員の方々も生徒たちも時間を忘れてゴミ拾いを行い、「これは燃えないゴミ?」「燃えるゴミのバケツ持つてる人〜!」などお互いに声を掛け合い、積極的に取り組んでいました。



新宿中学校

石田浩一副校長先生

A1 今年度練馬区より移動してまいりました。初めての新宿区ということでも不安も多くありましたが、新宿中学校は校舎も近代的で、生徒が明るく元気に通っている姿が見られ、とても雰囲気

良い印象を受けました。今後も地域の皆さまのご協力をいただきながら、より良い学校づくりを進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

A2 運動会は6月に学年別での開催をしました。残念ながらその際は無観客にさせていただきました。

10月に行われた学芸発表会の合唱の部では、生徒はマスク着用でしたが、久しぶりの発表の場で、各学年とも素晴らしい歌声を聞かせてくれました。また、この時は保護者の方々にも見ていただくことができました。

3学期には展示発表を予定しています。こちらも現在見に来ていただけるように計画をしています。



A3 まだまだコロナウイルスの影響はありますが、生徒一人ひとりが手洗いやマスク着用、換気等に対して高い意識をもって取り組んでいます。そんな中ではありますが、校外学習や2年生のスキー移動教室、3年生の修学旅行などに向けた取り組みも進めています。感染防止を徹底しながら、行事も学校生活も楽しんでもらいたいと考えています。

大久保地区青少年育成委員会 社会環境部の研修会に参加して

大久保小学校PTA会長 下村 治行

3人の子どもの父親として、また小学校PTA会長の立場として、私は少年非行の問題に強い関心をもっております。子どもたちはこれからの日本を、そして世界の未来を担っていく大切な存在です。新宿警察署、新宿少年センターの職員の方々や、青少年育成委員会等の地域の皆様に見守られながら、たくましく元気に成長してほしいと願っております。

研修会は新宿警察署の講堂にて開催され、まず初めに「万引きは絶対に悪い」というタイトルの子ども向けDVDを視聴しました。非行はステップを踏んでエスカレートするとの経験則があり、万引きは例え少額であっても非行の入り口として見落とせないものであると感じました。

警察署の方々は、少年非行に関しては親と同じ気持ちで強く叱ってくださいるとのご指導に関心いたしました。併せて万引きに及んでしまった少年は家庭環境や交友関係など様々な要因をはらんでおり、本人以外の周囲の大人がど



これまで寄り添っていけるか、難しい課題も感じ取りました。

次に少年センターより「少年非行の概況」についてご講話をいただきました。まず驚いたのは大麻使用の年齢低下傾向と、心身に及ぼす有害性認識の低さです。大麻は覚せい剤に比して安価で、国によっては合法、また仕様がファッションのように捉われている面もあり、犯罪の入り口として看過できないものであると強く感じました。

非行の低年齢化には、やはりスマホをはじめとする情報端末の普及が影響していると感じます。勉強を進めていくと、様々な少年非行の足掛かりがスマホであると感じざるを得ません。ウイルスを介した特殊詐欺、SNSトラブルや集団非行、

KABAから選手村を臨む!!

天神小学校PTA副会長 鈴木まどか

都心でもイチョウが色づく11月28日(日)、オリンピック・パラリンピック前から企画されていた「水陸両用車両KABAでめぐるオリンピック会場」のイベントを無事に開催することができました。2020年初めからのコロナ禍でなかなかイベントを開催することができなかった育成会としては、縮小した規模でのイベントとはなりましたがようやく開催に至ることができ、地域の子供たちの笑顔を見ることができて万感の思いです。

KABAはその名の通り水と陸に住む動物カバをモチーフにしたバスで、お台場アクアシティから出発して歴史的な砲台の台場から、最新技術を使ったガンダムまで、色々な名所を巡る観光バスです。寒さは厳しくなりつつありましたが快晴の天気恵まれ、潮風を感じて名所がきれいに見え

薬物の取引等々。しかし、現在の社会状況において、少年と情報通信機器とのかかわりは断ちようがありません。各家庭では使用ルール設定、また具体例を踏まえた心構え等をしつかり話しておくことが期待されます。

例年ですと講話の後、実際に歌舞伎町周辺を实地検分する流れとなりますが、今年度は残念ながら感染症対策のため研修会のみとなりました。私はPTA会長1年目であり、少年非行についてはまだまだ勉強不足です。今後も研修会等を通して、青少年育成委員会で見識を広めたいと感じました。関係者の皆様には大変有意義な会になりましたことを心から感謝いたします。

社会環境部

るように窓は全開です。

バスガイドさんはとってもコミカルで、「みなさんがちゃんと濡れてもらえるように窓全開しましたよ」「東京湾にはサメが



いっぱいいるので気を付けてね」とみんなドキドキです。水泳とトライアスロンの会場になったお台場海浜公園を眺めながら出発、そしてガンダムを背後にスポーツクライミングが行われた青海アバンスポーツパークの横を通り、船の科学館の前を曲がって、バレー

ボール会場の潮風公園の端から海へのスプラッシュ! 3・2・1カバ!! のカウントダウン(残念ながら感染防止なので心の中で)で水しぶきがあがると大人も子供も目がキラキラ輝き、拍手が沸き起こりました。

海の上では色々なクイズ問題に答えながら東京タワーやスカイツリーを脇に眺め、レインボーブリッジの下をくぐると晴海の選手村が一望できます。名残惜しくも海から陸上に戻ると、まずは船の洗浄です。どうして洗浄するか、洗浄しないとどんな問題がおきてしまうかの説明があつてちよつとした勉強タイム。最後には自由の女神からなんと挨拶が!? あつてツアーは終了。バスを降りてからもみんなバスの下を覗いたり、興味は尽きない様子でした。

新型コロナウイルスによる第1回緊急事態宣言が2020年4月になされてから、約2年経ちます。治療法やワクチンが承認され、日本でも何度かの感染の波を経験しつつも、色々な場面面で人やイベントが以前のように戻りつつあるのを感じます。育成会としても感染予防を徹底し、地域の皆様と子供たちを結んで健全な育成を促す楽しいイベントを再開すべく、地域の皆様の理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。 育成部

1年ぶりのステージ

親子合唱団 岩垂香澄

昨年の11月3日、新宿文化センターで「音楽・コーラスのつどい」が開催されました。コロナ禍のため久しぶりの開催でしたが、親子合唱団にも声をかけて頂きました。本格的な大人の方たちの

合唱に交じって、マスク着用や舞台上でのソーシャルディスタンスなど、いろいろと不安はありましたが思い切って参加させて頂きました。

毎年この時期は「新宿ユース・ステージパフォーマンス」に参加していましたが、2019年は台風の影響で、2020年は新型コロナウイルスの影響のため中止が決まっていた。あいつぐ中止に気持ちも沈んでいましたが、この「音楽・コーラスのつどい」で二年ぶりのステージに立つことができ、親子で元気いっぱいこの歌とパフォーマンスを皆さんにお見せすることができました。

大きなホールいっぱいには歌声が広がっていきのを感じてとても感動し、参加して本当に良かったです。関係者の皆様の熱意とご尽力にはとても感謝しています。

今はまだ、マスクをはずして大きな声で歌うことは難しい状況が続いていますが、親子合唱団も引き続き感染予防対策をとりながら、またあのステージを目指して頑張ってゆきたいと思っています。

教養部



家庭でできる子育て支援を

はじめてみませんか？

「新宿区子どもショートステイ協力家庭、東京都養育家庭（里親）」を求めています。

区では、保護者に代わり、子どもを宿泊でお預かりいただく「子どもショートステイ協力家庭」を募集しています。保護者の入院、出張、育児疲れなどの理由で、一時的に子どもを養育できない時に最長7泊までお預かりいただくご家庭が協力家庭です。ご家庭に子どもを迎え入れていただき、食事、宿題、寝かし付け、通学通園先への送迎など、ご家族と共に過ごしていただいています。

大久保地区は、当該地域及び近隣に住む児童の利用頻度が高いだけでなく、利用児童の通園通学先への送迎にあたって交通の利便性が高いこともあり、協力家庭の利用率が高く、新しく協力家庭になってくださる方が必要になっています。

協力家庭としてご支援いただける方や詳しく知りたい方は、以下にお気軽にお問い合わせください。

また、東京都には様々な事情で、家族から離れて暮らす子どもたち（0歳から18歳まで）が約4,000人います。子どもたちが家庭的な環境の中で健やかに育つことができるように、都は養育家庭（里親）制度の普及に努めています。里親家庭にいます子どもは、わずか1割ほどで、多くは、児童養護施設で生活しています。

養育家庭（里親）には、養子縁組を目的とせず、一定期間養育していただく里親があります。里親の方のライフスタイルなどにより、預かる子どもの年齢や期間を東京都と話し合いながら決めていただくことができます。

【子どもショートステイ協力家庭認証研修開催のお知らせ】

日 時：令和4年3月1日（火）9：30～12：00
令和4年3月2日（水）9：30～16：30
場 所：新宿区立子ども総合センター（新宿7-3-29）
申込先：子ども総合センター ☎ 03-3232-0675
総合相談係 FAX 03-3232-0666

【新宿区協力家庭についての問い合わせ】

新宿区子ども総合センター総合相談係
☎ 03-3232-0675
FAX 03-3232-0666

【東京都養育家庭（里親）についての問い合わせ】

東京都児童相談センター ☎ 03-5937-2316
二葉・子どもと里親サポートステーション
☎ 03-3351-3108

また、委託期間中の養育費等は基準に基づき東京都が支払います。養育にあたっては、里親と支援する機関がチームを組み、地域の関係機関もチームの一員として養育を応援します。

家庭で暮らすことができない子どもたちとの生活を始めてみようという方は、以下にお問い合わせください。

令和3年5月18日に予定しておりました「令和3年度大久保地区青少年育成委員会総会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。関係各位には委員総会資料を配布し、ご報告させていただきました。